

令和 6 年度 スポーツ施策の取組状況（重点施策）

○第 3 期高知県スポーツ推進計画の総括評価基準

評価区分	達成状況
S	数値目標の達成率 110%以上
A	// 100%以上110%未満
B	// 85%以上100%未満
C	// 70%以上 85%未満
D	// 70%未満
—	達成度の判断が困難なもの

令和6年9月末時点

重点事業の取組状況確認資料(令和6年度9月末時点) 【施策の柱① スポーツ参加の拡大】

事業名	事業概要	令和９年度末の到達目標	令和６年度末 の目標値	実績 (R6.9月末時点)	9月末時点の 達成度
子どものスポーツ環境整備事業	市町村が行う子どものスポーツ環境づくりへの支援を行うとともに、複数の市町村が広域で連携する取組について、民間団体の協力や県版地域おこし協力隊の配置などにより、効果的に進める	①子どものスポーツ環境づくりについて関係者が連携して対応する体制をつくり取り組んでいる市町村数 → 34市町村 ②広域で連携した取組が展開できているエリア数 → 6エリア ③子どもの体力・運動習慣の向上 → 小中学生の男女とも全国平均を上回る	① 17市町村 ② 2エリア ③ 小中学生の男女とも全国平均を上回る	① 8市町村 ② 2エリア ③※ 12月調査結果公表	① (B) ② (S) ③ －

【P(Plan)】	【D(Do)】	【C(Check)】	【A(Action)】	次年度に向けた 見直しの方向性
当初計画	これまでの取組み状況	見えてきた課題	見えてきた課題に対する改善策	
(1)市町村の取組の充実 - 子どものスポーツ環境整備事業費補助金による財政支援（４月～） - 地域の現状や課題の把握、県の取組の方向性の共有（４月～５月） - 市町村事業の充実に向けた市町村への働きかけ (2)広域で連携する取組の推進 - 広域スポーツハブ促進委員会（６エリア）の開催 - 指導者に関するアンケート調査の実施(７月～９月) - 広域で連携する取組に関するアクションプランの作成（～３月） (3)民間活力による効果的な活動の展開 - 高知県スポーツコミッションによる研修会等の開催（６月～） ＜テーマ案＞ 子育て支援等から見たスポーツ指導者の育成に関する研修 （例：スポハラ、ボディメンテナン） 新たな地域スポーツ指導者の養成 ほか (4)県版地域おこし協力隊配置による活動推進 - 市町村訪問等によるヒアリング - 地域のスポーツ活動への参加及び情報発信 - 地域におけるスポーツ指導	(1)市町村の取組の充実 - 子どものスポーツ環境整備推進事業費補助金による財政支援(交付決定：８市町村) - 市町村訪問等によるヒアリング（10市町村） (2)広域で連携する取組の推進 - 第１回広域スポーツハブ促進委員会（地域における子どものスポーツ環境づくり検討会）の開催 (物部川4/24、嶺北5/16、高幡5/21 幡多6/3、安芸6/4、仁淀川6/17) (3)民間活力による効果的な活動の展開 - 高知県スポーツコミッションとの定例会（月１回開催） - 高知県スポーツコミッションによる研修会等の開催 高知県栄養セミナー（６/27）南国市 (4)県版地域おこし協力隊配置による活動推進 - 市町村訪問によるヒアリング（10市町村） - 地域のスポーツ団体や障害者スポーツの情報発信 障害者スポーツ体験（ゴールボール）（４/25） スポーツ体験（本山町クライミング）（6/12） スポーツ体験（香南市セーリング）（8/3） - 嶺北地域の子どもを対象としたダンスレッスン体験会の実施（全５回 6/22,29,7/6,20,27）、ダンス発表（石原納涼祭 8/14） - 水泳教室の実施（全14回、11市町村）	(1)市町村の取組の充実 - 子ども達のニーズが多いスポーツを行うことができる環境が十分でない地域が見られる - 身近な地域に指導者がおらず、継続的な活動が立案できにくい場合がある - 各市町村の取組の拡充を図るためには市町村の教育や福祉、健康などの部署との連携が必要 (2)広域で連携する取組の推進 - 広域的な取組を企画・推進する人材の掘り起こしが必要 - 広域で連携する取組は先進事例が少ないため、効果的に実施するための工夫が必要 (3)民間活力による効果的な活動の展開 - 研修会により多くの参加が得られる工夫が必要 - 地域住民の子どものスポーツ環境づくりへの関心を高めることが必要 (4)県版地域おこし協力隊配置による活動推進 - 県版地域おこし協力隊(1名)が市町村と連携して取り組める市町村数に限りがある	(1)市町村の取組の充実 - 各市町村ごとのニーズについて、市町村担当課と共有し、個別に対応策を協議する ※総合型地域スポーツクラブ等と連携した体験会等の実施を検討 - 競技団体や近隣市町村の人材の掘り起こしや、大学生の協力を求めてスポーツ活動とのマッチングを行う - 各市町村の担当課を通じて、スポーツ所管課以外への情報発信を行い、必要に応じて連携する (2)広域で連携する取組の推進 - 地域おこし協力隊の活用を検討する - 地域の運動会など、多世代が一緒に活動できるスポーツイベントを通じた人材の掘り起こしを行う - 広域で連携した取組のアクションプランの充実とPDCAの徹底 (3)民間活力による効果的な活動の展開 - R5に実施したアンケート結果や市町村ヒアリングの内容を踏まえた研修テーマを設定する - 他の市町村や総合型地域スポーツクラブなどが行う研修会、イベントなどの情報を共有し、各市町村の担当課等から情報発信する (4)県版地域おこし協力隊配置による活動推進 - 次年度に向けた地域おこし協力隊の増員の検討	○子どものスポーツ活動を支える地域の協力者のさらなる掘り起こし

重点事業の取組状況確認資料(令和6年度9月末時点) 【施策の柱① スポーツ参加の拡大】

事業名	事業概要	令和９年度末の到達目標	令和６年度末 の目標値	実績 (R6.9月末時点)	9月末時点の 達成度
高知県パスウェイシステム事業 (マッチングプログラム)	スポーツの楽しさを知り、スポーツに親しむ子どもを増やすため、親子で楽しむ運動プログラムや自分の運動特性を知ることができる体力測定、多様な種目の体験会などを県内各地で提供する	マッチングプログラムの参加者数 → <u>毎年、前年比10%増の累計9,500人</u> (R4時点：1,420人)	1,718人	592人	(D)

【P(Plan)】	【D(Do)】	【C(Check)】	【A(Action)】	次年度に向けた 見直しの方向性
当初計画	これまでの取り組み状況	見えてきた課題	見えてきた課題に対する改善策	
(1)マッチングプログラム I-1：「あそびバ！」 【目的】 親子で参加する遊びを通した運動プログラムの実施及び運動に関する知識や情報を提供するプログラム 【対象】幼児(４歳)から小学３年生 【回数】３回(東部・中部・西部) 【定員】東部・西部50組100名程度、中部70組140名程度 I-2：「遊びの広場」 【目的】 気軽に参加でき、楽しく体を動かすことができる運動プログラム 【対象】幼児(４歳)から小学６年生 【回数】６回(東部・中部・西部・その他県内各地３回) 【定員】東部・西部150名程度、中部200名程度 II-1：「スポーツ能力測定会」 【目的】 子ども達の新たな可能性の気づきにつなげる体力測定会 【対象】小学３年生から小学６年生 【回数】１回 【定員】200名程度 II-2：「キッズスポーツ体験会」 【目的】 自分に合う競技を見つけることができるきっかけづくりを目的とした競技体験会 【対象】 小学３年生から小学６年生 【回数】県内各地４回以上 【定員】累計240名程度 (2)高知くろしおキッズ ※高知県パスウェイシステム事業（高知くろしおキッズ）のページに記載	(1)マッチングプログラム I-1：「あそびバ！」 3/3回 (284人) I-2：「遊びの広場」 1/6回 (16人) II-1：「スポーツ能力測定会」 0/1回 (-人) II-2：「キッズスポーツ体験会」 0/4回 (-人) ※参加者累計 (300人) ◆ I-1：「あそびバ！」 ① 6月15日(土)：安並運動公園体育館 (70人) ② 6月22日(土)：東部総合運動場多目的ドーム (144人) ③ 6月23日(日)：中芸広域体育館結いの丘ドーム (62人) ◆ I-2：「遊びの広場」 ① 5月28日(火)：安芸市立赤野小学校 (16人) ②11月 2日(土)：安並運動公園体育館 (-人) ③11月16日(土)：高知市総合運動場多目的ドーム (-人) ④11月24日(日)：安芸市多目的体育館安芸ドーム (-人) ⑤調整中：安芸市立安芸第一小学校 (-人) ⑥調整中：宿毛市立沖の島小学校 (-人) ⑦調整中：高知黒潮カントリークラブ (-人) ◆ II-1：「スポーツ能力測定会」 ①10月20日(日)：高知県立青少年センター (-人) ◆ II-2：「キッズスポーツ体験会」 ①11月30日(土)：高知県立青少年センター (-人) ②高知市総合運動場自転車競技場 (-人) ③調整中 (-人) ④調整中 (-人) (2)高知くろしおキッズ ※高知県パスウェイシステム事業（高知くろしおキッズ）のページに記載	(1)マッチングプログラム ・各プログラムにおいてより多くの参加が得られるよう、周知の強化及び内容の充実が必要 ・障害のある子ども達の参加につなげる必要がある	(1)マッチングプログラム ・開催時期を分散化するとともに、チラシの配布やSNS、HPでの周知の強化を図る ・小中学校や特別支援学校への周知を行う ・各プログラムの目的に応じた内容を検討する ・各プログラムごとの実施計画を早期にまとめ、開催案内を効果的に行う	○事業の規模は継続し、開催地域、内容等を見直して実施

重点事業の取組状況確認資料(令和6年度9月末時点) 【施策の柱① スポーツ参加の拡大】

事業名	事業概要	令和９年度末の到達目標	令和６年度末の目標値	実績 (R6.9月末時点)	9月末時点の達成度
スポーツ指導者の育成及びマッチング ※障害者スポーツに関する取組は「障害者がスポーツに親しめる環境づくり」に記載	有資格のスポーツ指導者の養成やスポーツ指導者をマッチングする取組などにより、地域でスポーツを支援する人材を育成・確保する	①高知県スポーツ科学センターによる研修会の参加者数 → 200人以上／毎年 ②有資格指導者の数：R ４から10%増 a:日本スポーツ協会公認指導者資格 ： 1,419人（R 4）→1,560人 b:日本パラスポーツ協会指導員資格 ： 207人（R 4）→227人 ③全高知チームにおける実践研修の実施 → 全ての全高知チームで実践研修が行われている	① 200人以上／年 ② a:1,475人 ② b:215人 ③ 15競技団体	① 43人 ② a:10月に公表 ② b:208人 ③ 11競技団体	① (D) ② a:－ ② b:(S) ③ (S)

【P(Plan)】	【D(Do)】	【C(Check)】	【A(Action)】	次年度に向けた見直しの方向性
当初計画	これまでの取り組み状況	見えてきた課題	見えてきた課題に対する改善策	
(1)スポーツ指導者育成及びマッチング ①指導者の掘り起こし ・大学生への意向調査の実施 ・スポーツ指導現場への大学生、企業人材の参画の仕組みづくりに向けた協議（10月～） ・高知県スポーツコミッションによる研修会等の開催(6月～) ＜テーマ案＞ 子育て支援等から見たスポーツ指導者の育成に関する研修 （例：スポハラ、ボディメンテナンス） 新たな地域スポーツ指導者の養成 ほか ②指導者の育成 ・全高知チームのトップコーチから学ぶ実践研修（随時） ・日本スポーツ協会公認指導者養成講習会（6月、11月） ・日本パラスポーツ協会指導員養成講習会の開催（1月～） ・グッドコーチ養成セミナーの実施 ③指導者のマッチング ・スポーツ団体や市町村等の依頼に応じて指導者を紹介（随時） ・スポーツ指導現場への大学生、企業人材の参画の仕組みづくりに向けた協議（10月～）〔再掲〕 (2)スポーツ推進委員の活動の活性化 ・研修会の開催 （初任者研修会（7月）、県研修会（12月）） ・各地区が行う研修会等への支援（随時） ・多世代が参加するスポーツ活動に関する検討会議	(1)スポーツ指導者育成及びマッチング ①指導者の掘り起こし ・高知県スポーツコミッションとの定例会（月1回開催） ・高知県スポーツコミッションによる研修会等の開催 高知県栄養セミナー（6/27）南国市 ②指導者の育成 ・全高知チームのトップコーチから学ぶ実践研修（随時） ※11競技が実施（9月末） ・日本スポーツ協会公認指導者養成講習会（9/28,29）※受講者：30名申し込み ・グッドコーチ養成セミナーの実施（5/11）※受講者：2名 ・ダンス指導研修会の調整 （高知県女子体育指導者の会5/13） (2)スポーツ推進委員の活動の活性化 ・高知県スポーツ推進委員連絡協議会総会（5/14） ・幡多地区スポーツ推進委員合同研修会（6/21） ・高知県スポーツ推進委員連絡協議会初任者研修会（7/28：30人）	(1)スポーツ指導者の育成及びマッチング ①指導者の掘り起こし ・競技団体へ登録している有資格指導者だけでは、地域のスポーツ活動をサポートすることは難しい。 ②指導者の育成 ・各種研修により多くの参加が得られるようにすることが必要 (2)スポーツ推進委員の活動の活性化 ・各地区のスポーツ推進員が核となって行う研修会の実施件数が少ない ・多世代が参加するスポーツ活動（地区運動会）では、参加人数の確保に苦慮している地域が見られる	(1)スポーツ指導者の育成及びマッチング ①指導者の掘り起こし ・保護者や競技団体に登録していない地域の人材を対象とした研修や体験会を実施する ②指導者の育成 ・事前周知を徹底する (2)スポーツ推進委員の活動の活性化 ・各地区ごとの研修会の実施に向けて地域のスポーツニーズ等の情報提供や具体的な研修内容の提案を行う ・多世代が参加するスポーツ活動（地区運動会）に関する調査による課題を共有・分析し、高知県スポーツ推進委員連絡協議会において対策を検討する	○地域における子供や障害者のスポーツ活動を支える協力者（指導者・スポーツボランティア）のさらなる掘り起こし

重点事業の取組状況確認資料(令和6年度9月末時点) 【施策の柱① スポーツ参加の拡大】

事業名	事業概要	令和９年度末の到達目標	令和６年度末 の目標値	実績 (R6. 9月末時点)	9月末時点の 達成度
障害者スポーツ推進事業	障害者が身近な地域でスポーツに親しめる環境づくりや、障害者のスポーツ活動を支援する体制の整備、障害者のスポーツ大会の開催などにより、障害者のスポーツ参加の拡大を図る	①障害者がスポーツ活動することができる団体数 → 37団体 ②障害者スポーツセンターと連携し地域の活動支援を行う体制ができていエリアの数 → 6エリア ③発掘の取組により中央競技団体に登録した選手数 → 25人 ④中央競技団体への登録者数 → 220人 ⑤誘致した大会数（R5からの累積数） → 5 ⑥公認パラスポーツ指導員有資格者数 → 227人	① 31団体 ② 3エリア ③ 10人 ④ 204人 ⑤ 3 ⑥ 215人	① 29団体 ② 3エリア ③ 年度末に集計 ④ 年度末に集計 ⑤ 1 ⑥ 208人	① (D) ② (S) ③ － ④ － ⑤ (D) ⑥ (S)

【P(Plan)】	【D(Do)】	【C(Check)】	【A(Action)】	次年度に向けた見直しの方向性
当初計画	これまでの取り組み状況	見えてきた課題	見えてきた課題に対する改善策	
(1)障害者スポーツの活動支援 ＜県立障害者スポーツセンターを核とした取組＞ ①地域のスポーツ活動と障害当事者のマッチング ②パラスポーツ指導員の養成 ・中級パラスポーツ指導員養成講習会への派遣（7月） ・初級パラスポーツ指導員養成講習会の実施（11月） ③全国障害者スポーツ大会 ・全国障害者スポーツ大会への派遣（10月/佐賀県） ・中四国ブロック大会への派遣（4月～6月） ④高知県障害者スポーツ大会 ・大会の開催（5月、6月、10月） ⑤障害者スポーツの情報発信 ・障害者スポーツセンターのHPによる教室や大会情報の発信 ⑥障害者スポーツの理解啓発 ・県版地域おこし協力隊による障害者スポーツ体験の紹介 (2)身近な場所におけるスポーツ機会の拡充 ①障害者の活動の受け皿づくり ・新たなスポーツサークルの立ち上げ支援 ・既存の地域スポーツクラブにおける障害者の受け入れ促進 ②インクルーシブなスポーツ活動の推進 ・大阪体育大学と連携した若者への障害者スポーツの普及(8月) ・障害者と健常者が参加する車いすラグビー大会の開催（12月） ・インクルーシブなスポーツイベント(JAMフェスタ)の開催（12月） ③リモートを活用したスポーツ機会の提供 ・PERF株式会社と連携したリモートによるダンス指導 ④市町村が行う障害児のスポーツ活動の充実 ・子どものスポーツ環境整備事業費補助金による財政支援 ⑤障害者スポーツ大会や合宿の誘致 ・競技団体等と連携した大会・合宿の誘致活動 (3)全国や世界を目指す選手の発掘・育成 ①有望選手の発掘・育成 ・日本パラ陸上競技連盟との連携による、パラアスリート発掘・育成に係る大会・記録会の開催 ②全国や世界を目指す強化活動支援 ・特別強化選手や強化助成選手の活動への支援	(1)障害者スポーツの活動支援 ①地域のスポーツ活動と障害当事者のマッチング ②パラスポーツ指導員の養成 ・中級パラスポーツ指導員養成講習会へ派遣（1名：7月（前期日程）） ③全国障害者スポーツ大会 ・派遣選手団の選考（6/6） ④高知県障害者スポーツ大会 （5/26 申込み者数：637名） ⑥障害者スポーツの理解啓発 ・障害者スポーツ体験（ゴールボール）(4/25) (2)身近な場所におけるスポーツ機会の拡充 ①障害者の活動の受け皿づくり ・障害者スポーツセンター機能強化事業(国事業) ※実施主体は日本パラスポーツ協会への申請（6月 ※9/12採択） ②インクルーシブなスポーツ活動の推進 ・大阪体育大学アダプテッドスポーツとの連携によるゆすはらパラスポーツ交流会の開催（8/5、6） ・障害者スポーツ推進プロジェクト事業(国事業) 〈車いすラグビー大会の開催〉の申請（7月 ※9/17採択） ③リモートを活用したスポーツ機会の提供 ・SEPTENI RAPTURESのプロダンサーによる対面、オンラインでのダンス指導の実施(9/21～) ④市町村が行う障害児のスポーツ活動の充実 ・子どものスポーツ環境整備事業費補助金による財政支援（1件） (3)全国や世界を目指す選手の発掘・育成 ①有望選手の発掘・育成 ・日本パラ陸上競技連盟との連携に係る協議（5/7、6/19、8/8、9/4） ②特別強化指定選手の選定 （S指定：5名、A指定：7名） 県内で活動する団体・個人に対する強化費の助成（4月～）	(1)障害者スポーツの活動支援 ①地域のスポーツ活動と障害当事者のマッチング ・<u>既存の活動への障害者の参加を増やすためには、地域における障害者や障害者スポーツへの理解を深めることが必要</u> ③全国障害者スポーツ大会 ・団体種目はここ数年ブロック予選が突破できていない ④高知県障害者スポーツ大会 ・高知県障害者スポーツ大会をはじめ、障害者のスポーツ大会への参加機会の拡充を図ることが必要 (2)身近な場所におけるスポーツ機会の拡充 ①障害者の活動の受け皿づくり ・新たなサークルや既存クラブへの障害者の参加を増やす手立てが必要 ②インクルーシブなスポーツ活動の推進 ・<u>市町村では障害者スポーツの取組が少ない</u> ③リモートを活用したスポーツ機会の提供 ・障害の特性に応じた活動時間や活動内容の設定が必要 ④市町村が行う障害児のスポーツ活動の充実 ・市町村における障害児のスポーツ活動が少ない (3)全国や世界を目指す選手の発掘・育成 ①有望選手の発掘・育成 ・発掘後に継続して選手をサポートする環境づくりが必要 ・育成を見据えた効果的な発掘の仕組みの検討が必要	(1)障害者スポーツの活動支援 ①地域のスポーツ活動と障害当事者のマッチング ・<u>地域において障害者のスポーツ活動を支援できる人材の確保のための研修会を実施</u> ③全国障害者スポーツ大会 ・関係者の意見を聴取し、効果的な支援のあり方を検討する ④高知県障害者スポーツ大会 ・障害者スポーツ大会の在り方を検討する場を設定し、障害当事者の意見を幅広く伺いながら、協議する ・インクルーシブなスポーツ大会の開催を検討する (2)身近な場所におけるスポーツ機会の拡充 ①障害者の活動の受け皿づくり ・障害者が活動できる場について、新たなサークルや地域スポーツクラブ等と連携して情報を発信する ②インクルーシブなスポーツ活動の推進 ・<u>地域の福祉関係者のニーズに応じた取組を検討する</u> ③リモートを活用したスポーツ機会の提供 ・障害者及び障害者スポーツの理解啓発の研修会やイベントを実施 ④市町村が行う障害児のスポーツ活動の充実 ・市町村の実情に応じて障害児のスポーツ活動を提案する (3)全国や世界を目指す選手の発掘・育成 ①有望選手の発掘・育成 ・対象者の実情に応じて、競技団体や地域スポーツクラブ等に協力を求め、継続的に活動・支援ができる体制をつくる ・先進県のヒアリングによる仕組みの検討	○地域において障害者が多様なスポーツ活動ができる環境づくりの推進 ○障害者の競技スポーツ活動を支援する体制の強化

重点事業の取組状況確認資料(令和6年度9月末時点) 【施策の柱② 競技力の向上】

事業名	事業概要	令和９年度末の到達目標	令和６年度末の目標値	実績 (R6.9月末時点)	9月末時点の達成度
競技力向上に向けた強化事業	競技団体が行う系統的かつ計画的な選手の育成・強化活動を支援するとともに、スポーツ医科学面からのサポートを行うことで、各競技団体の組織的な育成・強化体制の充実や障害者の強化活動の充実を図り、本県の競技力向上につなげる	①全国中学校体育大会の入賞競技数 → 9競技 ②全国高等学校総合体育大会の入賞競技数 → 15競技 ③スポーツ医科学を組織的に活用している競技団体数 → 30競技団体 ④障害者スポーツの発掘事業で選抜する選手数 → 25人	① 8競技 ② 12競技 ③ 24競技団体 ④ 10人	① 6競技 ② 9競技 ③ 14競技団体 ④ 年度末に集計	① C ② C ③ (S) ④ －

【P(Plan)】	【D(Do)】	【C(Check)】	【A(Action)】	次年度に向けた見直しの方向性
当初計画	これまでの取り組み状況	見えてきた課題	見えてきた課題に対する改善策	
(1)競技の特性に応じた計画的・組織的な育成・強化 ・RPDCA（進捗管理シート）による各競技の実状に応じた、育成・強化（全競技） ・全高知チームによる重点強化（15競技） 水泳、陸上、サッカー、柔道、剣道、ラグビー、レスリング、ソフトボール、卓球、ライフル射撃、バドミントン、カヌー、バスケットボール、ソフトテニス、バレーボール ・特別強化選手を認定した重点強化 ・国民スポーツ大会四国ブロック大会への派遣 ・国民スポーツ大会への派遣 (2)競技団体等における適切な組織運営の促進 ・競技団体やスポーツ少年団における組織運営への支援（通年） - コンプライアンスの遵守 - ガバナンスコードに基づく運営 ※ガバナンスコード：スポーツ団体が適切な組織運営を行う上での原則・規範を示すもの (3)スポーツ医科学の活用 ※スポーツ医科学の活用のページに記載 (4)障害者スポーツにおける全国や世界を目指す選手の育成・支援 ①有望選手の発掘・育成 ・日本パラ陸上競技連盟との連携による、パラアスリート発掘・育成に係る大会・記録会の開催 ②全国や世界を目指す強化活動支援 ・特別強化選手や強化助成選手の活動への支援 (5)アスリートや指導者のキャリア支援 ・高知県アスリート等無料職業相談所の開設 ・アスリート等就職支援バンクへの登録 ・キャリア支援専用WEBサイトの開設 (6)オリンピック・パラリンピックの機運醸成 ・高知県関係者の情報発信 ・壮行会やパブリックビューイングの協力・実施	(1)競技の特性に応じた計画的・組織的な育成・強化 ・RPDCAシート初期分提出（４月・全40競技団体） ・全高知チームによる強化練習（４月～） ・国民スポーツ大会正式競技における基本的な強化（４月～） ・特別強化選手の認定：10名 ・国民スポーツ大会四国ブロック大会への派遣 ・<u>国民スポーツ大会への派遣（佐賀県）</u> <u>総合成績:38位（R5:44位）</u> <u>獲得得点:782.5点（R5:672.5点）</u> (2)競技団体等における適切な組織運営の促進 ・スポーツ団体に対してガバナンスコードについて説明(４月～５月) (3)スポーツ医科学の活用 ※スポーツ医科学の活用のページに記載 (4)障害者スポーツにおける全国や世界を目指す選手の育成・支援 ①日本パラ陸上競技連盟との連携に係る協議（5/7） ②特別強化指定選手の選定（S指定：６名、A指定：６名） - 県内で活動する団体・個人に対する強化費の助成（４月～）(団体：７団体、個人：21人) (5)アスリートや指導者のキャリア支援 ・<u>高知県アスリート等無料職業相談所の開設に向けた準備(4月～)</u> ・<u>アスリートや指導者、企業に対するアンケートの実施(5月～6月)</u> ・<u>キャリア支援専用WEBサイトの開設準備（7月～）</u> (6)オリンピック・パラリンピックの機運醸成 ＜大会成績＞ ○オリンピック（大会期間：7/26～8/11：11日間） - 櫻井つぐみ（レスリング）【金メダル獲得】 - 清岡幸太郎（レスリング）【金メダル獲得】 - 里見真理子（ビーチバレー審判員） ○パラリンピック（大会期間：8/28～9/8：12日間） - 藤原大輔（バドミントン）【4位】 - 小松沙季（カヌー）【棄権】 - 鬼谷慶子（陸上円盤投げ座位）【銀メダル獲得】 - 池透暢（車いすラグビー）【金メダル獲得】 ＜機運醸成の主な取組＞ ・広報物の作成・掲示・配布（チラシ・ポスター・横断幕） ・オリンピック凱旋パレードの実施（9/29）	(1)競技の特性に応じた計画的・組織的な育成・強化 ・<u>競技力の全体的な底上げに向けて、競技の特性に応じた効果的な強化活動を行うことが必要</u> (4)全国や世界を目指す選手の発掘・育成 ・発掘後に継続して選手をサポートする環境づくりが必要 (5)アスリートや指導者のキャリア支援 ・アスリートや指導者、受け入れ企業等のニーズを捉えた情報発信が必要 (6)オリンピック・パラリンピックの機運醸成 ・パリ2024オリンピック・パラリンピックで高まったスポーツの機運を今後のスポーツ振興に活かすことが必要	(1)競技の特性に応じた計画的・組織的な育成・強化 ・<u>佐賀国スポの成績を分析し、各競技団体ごとの育成・強化活動の計画の見直しを行う</u> (4)全国や世界を目指す選手の発掘・育成 ・対象者の実情に応じて、競技団体や地域スポーツクラブ等に協力を求め、継続的に活動・支援ができる体制をつくる (5)アスリートや指導者のキャリア支援 ・アンケート結果を踏まえて、今年度中に立ち上げるキャリア支援専用WEBサイトの内容や運用方法を検討する ・<u>競技団体の会議や高知県企業スポーツ推進協議会の機会を捉えて周知する</u> ・無料職業照会所により、アスリートや企業のニーズに応じた就職サポートを行う (6)オリンピック・パラリンピックの機運醸成 ・パラリンピック凱旋パレードを実施する（11/4） ・パリ2024オリンピック・パラリンピックの効果を今後のスポーツ振興に活かすため、特に子どもや若者を対象にした取組を検討する	○競技団体における県外遠征を重視した組織的・計画的な強化活動の推進 ○障害者の競技スポーツ活動を支援する体制の強化 ○有望なアスリートや指導者を県内企業等へ受け入れる仕組みの効果的な運用及び受け入れの拡大 ○オリンピック・パラリンピック等を契機とした、子どもや若者に関心が高い新たなスポーツの推進

重点事業の取組状況確認資料(令和6年度9月末時点) 【施策の柱② 競技力の向上】

事業名	事業概要	令和9年度末の到達目標	令和6年度末の目標値	実績 (R6.9月末時点)	9月末時点の達成度
スポーツ医科学の活用	スポーツ現場において行われる、健康増進や競技力向上に向けた技術練習・トレーニングが年齢、体力、競技特性等に応じて、合理的かつ効率的・効果的に行われるよう、スポーツ医科学の見地から様々なサポートを実施する	①スポーツ医科学を組織的に活用している競技団体数→ 30競技団体 ②高知県スポーツ科学センターによる研修会の参加者数→ 200人以上／毎年 ③高知県スポーツ科学センターと連携する外部スタッフ数→ 35人	① 24競技団体 ② 200人以上／年 ③ 26人	① 14競技団体 ② 43人 ③ 17人	① (S) ② (D) ③ (S)

【P(Plan)】	【D(Do)】	【C(Check)】	【A(Action)】	次年度に向けた見直しの方向性
当初計画	これまでの取り組み状況	見えてきた課題	見えてきた課題に対する改善策	
(1)パフォーマンス向上支援事業 ①SSC活用強化策年間計画の作成及び進捗管理 ②SSC活用強化策利用競技団体等へのヒアリングの実施 ③体力測定の実施 ④各種サポートの実施 (コンディショニング、栄養、メンタル、映像) ⑤メディカルチェック事業 ・各競技の強化選手等への内科的・整形外科的検診 (2)研修・支援事業 ①競技団体指導者・医科学コーディネーター等研修 (2回) ②地域の指導者やスポーツ拠点のスタッフへの研修 (5回以上) ③SSCサポートスタッフ研修(8回) (3)研究・情報活用事業 ①ホームページによるスポーツ医科学情報(動画を含む)の発信 ②ハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)ネットワーク連携機関(体力測定)によるHPSCとの連携 ※HPSC 国立スポーツ科学センターとナショナルトレーニングセンターが持つスポーツ医・科学、情報等による研究、支援及び高度な科学的トレーニング環境を提供する組織 (4)高知県スポーツ科学センター推進協議会 ①事業改善の提案及び助言、管理運営の状況を適切に評価 ②年間2回の実施(7月、3月)	(1)パフォーマンス向上支援事業 ①R6強化策活用競技団体：23競技団体(29競技種別) ・年間計画作成完了(4/19) ②SSC活用強化策利用競技団体等へのヒアリングの実施 (4月～) ③体力測定の実施(体力測定合計847人) 【月別利用人数】 4月(72人) 5月(128人) 6月(248人) 7月(134人) 8月(138人) 9月(127人) 【測定別利用人数】 一般体力測定(118人) 専門体力測定(729人) ④ <u>各種サポートの実施(サポート合計3,059人、442回)</u> 【月別利用人数】 4月(442人) 5月(432人) 6月(451人) 7月(530人) 8月(829人) 9月(375人) 【サポート種別利用人数】 コンディショニング 2,284人(380回) 栄養 285人(23回) メンタル 330人(29回) 映像 160人(10回) ⑤メディカルチェック事業 受診希望者数(469人) ※5月1日より受診開始 (受診人数は6/10から毎月1回確認) 【医療機関受診済人数】 5月(33人) 6月(53人) 7月(3人) (2)研修・支援事業 ③SSCサポートスタッフ研修(計：43人) 6月(13人) 7月(12人) 9月(18人) (3)研究・情報活用事業 ①Instagramを活用して広報活動を実施(4月～) ②SSC利用者に対してQRコードを活用したアンケートの実施 (4月～) ③SSCの測定を活用した高知県スポーツドクター協議会所属 医師との研究連携 (4)高知県スポーツ科学センター推進協議会 7/23実施	(1)パフォーマンス向上支援事業 ・SSCを組織的に活用する競技団体が増え、全国大会や国際大会で入賞する選手は着実に増加しているが、年間計画を作成して計画的にSSCを活用する競技団体をさらに増やすことが必要 ・活用する競技団体において、利用の頻度やサポート内容の増加が図られ、より効果的な活用ができるよう支援することが必要 ・1日の利用者数が限られていることから、選手との日程調整に時間を要する (2)研修・支援事業 ・各種研修により多くの参加が得られるようにすることが必要	(1)パフォーマンス向上支援事業 ・ <u>具体的な年間計画案をセンターから提示したうえで、指導やサポート等を行う</u> ・ <u>競技力向上の効果を丁寧に説明し、積極的な活用を促す</u> ・ <u>障害のある方や幅広い年代の方の利用にもつながるよう、効果的な活用事例の紹介やスポーツ医科学情報の発信を強化する</u> ・スタッフ研修によりサポートの質の向上を図る ・ <u>現場に出向いての指導助言を行う出張サポートなど、利用しやすい運用を行う</u> (2)研修・支援事業 ・各研修の実実施計画を早期にまとめ、開催開催案内を効果的に行う	○多様な競技者へスポーツ医科学サポートを拡充

重点事業の進捗状況確認資料(令和6年度9月末時点) 【施策の柱② 競技力の向上】

事業名	事業概要	令和９年度末の到達目標	令和６年度末の目標値	実績 (R6.9月末時点)	9月末時点の達成度
高知県パスウェイシステム事業 (高知くろしおキッズ)	県内の運動能力に優れた小学生を発掘し、さらに運動能力を高めるトレーニングや競技プログラムを実施するなど、将来有望な選手を発掘・育成し、県内の競技団体につなげる	高知くろしおキッズに応募する子どもの数 → <u>200人</u>	167人	※10月募集開始	—

【P(Plan)】	【D(Do)】	【C(Check)】	【A(Action)】	次年度に向けた 見直しの方向性
当初計画	これまでの取り組み状況	見えてきた課題	見えてきた課題に対する改善策	
(1)マッチングプログラム ※高知県パスウェイシステム事業（マッチングプログラム）のページに記載 (2)高知くろしおキッズ R6在籍者数：４年生23名　５年生30名　６年生24名 計77名 ◆育成プログラム ①トレーニングプログラム(４回) ②競技プログラム(15回程度) ③知的プログラム(４回) ④合宿プログラム(全学年１回)(６年生のみ１回) ⑤スペシャルプログラム(１回) ◆特別プログラム ①四国交流プログラム(５年生のみ) ※R6は香川県で実施予定 ◆ちゃれんじ選考会 ①ちゃれんじ１(３回) ②ちゃれんじ２(１回) ◆その他のプログラム ①認定式(4/28) ②修了式(3/9) ③保護者プログラム ◆その他の取り組み ①広報活動 ・活動内容やイベントの情報発信(SNSの活用) ②育成プログラムの充実を図る取組 ・宿題トレーニング・実施プログラムの動画配信、資料提供 ・プログラム検討会の実施 ・現キッズ、修了生、保護者へのアンケートの実施	(1)マッチングプログラム ※高知県パスウェイシステム事業（マッチングプログラム）のページに記載 (2)高知くろしおキッズ ◆育成プログラム ①トレーニングプログラム(３/４回) ・SAQ(4/28、6/16)・特別Tr（6/1) ②競技プログラム ・４年生(８回)(トランポリン、ラグビー、スポーツクライミング、飛込、カヌー、セーリング、ゴルフ、レスリング) ・５年生(８回)(トランポリン、ラグビー、スポーツクライミング、飛込、カヌー、セーリング、ゴルフ、レスリング) ・６年生(７回)(ライフル射撃②、ラグビー、カヌー②、セーリング②) ③知的プログラム(２/４回) ・ペップトーク(4/28)、栄養学(４年：7/7、５年：7/20) ④合宿プログラム ・夏期合宿全学年：室戸青少年自然の家他(８/20～22) ・大阪体育大学合宿６年生(9/14～16) ⑤池選手講演（10/13）実施予定 ◆特別プログラム ①四国交流プログラム ・10/27（日）実施予定 ◆その他のプログラム ①認定式(4/28) ②保護者プログラム ・スポーツ栄養学、ペップトーク(4/28)、スポーツ医科学(6/16) ③体力測定(SSC)(7/28、7/29、8/3、8/4) ◆その他の取り組み ①広報活動 ・活動内容やイベントの情報発信(SNSの活用) (週１回程度実施) ・オリンピック凱旋パレード、ボランティア（9/29) ②育成プログラムの質の向上(各プログラム後実施) ・宿題トレーニング・実施プログラムの動画配信、資料提供(随時)	(2)高知くろしおキッズ ・全てのキッズの能力の向上に向けて、効果的な運営やプログラム内容の充実を図ることが必要 ・年間を通してキッズのモチベーションを高める工夫が必要 ・学年が上がるにつれ自所属チームの主力となり、大会とプログラムの日程が重なり、欠席する場合がある	(2)高知くろしおキッズ ・講師とプログラム内容や進行などに関する事前確認を徹底するとともに、プログラム検討会において内容の検証・検討を行う ・毎回のプログラムの振り返りや活動の様子を複数のスタッフで確認しながら、キッズの意識の変化を捉えて、アプローチの仕方や方法を工夫する ・大会等でプログラムを欠席した場合は、個々に出場した大会の振り返りを動画で提出する等、きめの細かい宿題プログラムを実施する	○キッズの意識を高めるプログラム内容や体験プログラムの種目を見直して実施

重点事業の取組状況確認資料（令和6年度9月末時点）【施策の柱③ スポーツを通じた活力ある県づくり】

事業名	事業概要	令和９年度末の到達目標	令和６年度末の目標値	実績 （R6.9月末時点）	9月末時点の 達成度
プロスポーツ・アマチュア スポーツの誘致	プロ・アマチュアスポーツのキャンプや合宿、大会の誘致を推進し、地域経済の活性化やスポーツ参加の拡大、競技力の向上につなげる	１ スポーツによる県外からの入込客数： <u>12万人</u> 【内訳】 ① プロのキャンプ・大会 ： 8 万人 ② アマチュアスポーツ合宿 ： 1 万人 ③ スポーツ大会 ： 3 万人 ２ 地元プロチーム等のホーム戦の県内外からの入込客数 高知FD： <u>1.2万人</u> 高知USC: <u>3 万人</u> （@2千人）	１ ： <u>7 万人</u> 【内訳】 1-①：4.5万人 1-②：0.7万人 1-③：1.8万人 ２ ：高知FD ： <u>1 万人</u> 高知USC： <u>3 万人</u> (@2千人)	１ ： <u>46,237人</u> 【内訳】 1-①：22,395人 1-②：3,689人 1-③：20,153人 ２ ：高知FD ： <u>11,292人</u> 高知USC： <u>23,248人</u> (@2,113人)	１ ：(S) 【内訳】 1-①：(B) 1-②：(A) 1-③：(S) ２ ： FD ：(S) USC：(S)

【P(Plan)】	【D(Do)】	【C(Check)】	【A(Action)】	次年度に向けた 見直しの方向性
当初計画	これまでの取り組み状況	見えてきた課題	見えてきた課題に対する改善策	
(1) プロ・トップチームの誘致等 ① 既存チーム継続に向けた誘致 ・KVCAや市町村と連携した誘致活動や受入体制の強化 ② 新規チームの誘致 ・KVCAやスポーツコミッション、競技団体等と連携した新たなチーム・種目の誘致 ③ 自転車ロードレース大会の誘致 ・市町村等と連携した新たな自転車競技大会の誘致（JCLはR6年から活動休止） ④ 高知ファイティングドッグス、高知USCとの連携 ・ホーム戦観客者増に向けた委託業務 ・チームと連携した「どっぶり高知旅」のPR等 (2) アマチュアスポーツの誘致 ① 合宿・大会の誘致 ・KVCAや競技団体等と連携した既存チームの誘致 ・旅行会社（スポーツ専門）と連携した誘致 ・他部局、県外事務所と連携した誘致 ・大阪体育大学との連携協定に基づく当大学のクラブやOB・OG所属チームの誘致 ② スポーツ大会の開催支援 ・市町村等へのKVCAの助成制度の周知 ・「スポる！kochi」による情報発信（開催案内等） (3) その他 ・KVCAとの戦略会議（毎月） ・スポーツツーリズムによる経済効果の算出・公表	(1) プロ・トップチームの誘致等 ① 既存チーム継続に向けた誘致 ・オリックス（高知市長トップセールス・高知フェア開催 4/24） ・西武ライオンズ（知事トップセールス・高知フェア開催 4/30） ・カシオゴルフ（知事トップセールス 5/20） ・阪神タイガース（安芸市長トップセールス 5/25・安芸市長トップセールス高知県冠協賛試合 9/3・知事トップセールス9/12） ・千葉ロッテマリーンズ（高知フェア開催 8/21） ・花園近鉄ライナーズ（高知合宿 9/9～9/15） ・アルビレックス新潟（高知フェア開催 9/14） ・受入体制の充実に向けた市町村等との協議（4月 高知市、安芸市） ② 新規チームの誘致 ・男子バレーボール「広島JTサンダース」（6月） ・ファジアーノ岡山（高知キャンプ 7/23～7/26） ③ 自転車ロードレース大会の誘致 ・全日本実業団自転車競技連盟(JBCF) 及び宿毛市と協議(6/5) ④ 高知ファイティングドッグス、高知USCとの連携 ・ホーム戦観客者増等に関する委託業務締結（4/1） ・高知ファイティングドッグス店内販売（4月）、店内放送（随時） ・高知USCのJ3昇格に向けた支援（4月～） （ホームグラウンド施設整備、応援する会設置、ホーム戦集客支援等） ・高知USCアウェイ戦（東京）で観光PR等（6/22） ・高知USC店内販売（8/20） (2) アマチュアスポーツの誘致 ・合宿リピーターの確保・誘致 （KVCAから過去３年に合宿助成金利用団体へメール案内）（6月） ・県外の就職支援協定大学等に案内チラシを送付（7月） ・旅行会社（スポーツ専門）訪問（6月～） ・県内スポーツ協会や就職支援協定締結大学への助成情報の案内 ※ 助成金実績（R6.1月～7月：実績58件） （R5.1月～12月：実績87件） （R4.1月～12月：実績99件） ・競技団体キーパーソンとの連携による誘致（女子バスケ8団体、男子バスケ3団体） (3) その他 ・KVCAとの戦略会議（4月～） ・R5年のスポーツツーリズムによる経済波及効果の公表（11月予定）	(1) プロ・トップチームの誘致等 ・プロキャンプ観戦者の増加に向けた受け入れ体制の充実 ・スポーツ施設の老朽化 ・宿泊施設の確保 ・実施時期の分散化 ・関係機関との連携強化 ・情報発信の強化 ・屋内競技におけるプロ・トップチームの誘致 (2) アマチュアスポーツの誘致 ・スポーツ施設の老朽化 ・宿泊施設の確保 ・誘致種目の多種目化 ・実施時期の分散化 ・関係機関との連携した誘致活動の強化 ・情報発信の強化 ・合宿者等への避難経路・場所の周知徹底 （8/8の南海トラフ地震臨時情報により、KVCA合宿助成金のキャンセル6件あり）	(1) プロ・トップチームの誘致等 ・キャンプ会場での飲食ブースの拡充や観光PRの強化（市町村、観光協会との連携強化） ・施設管理者等との改修に向けた協議の継続 ・旅館組合等との協議の継続 ・連携協定等を活用した誘致活動の実施 (2) アマチュアスポーツの誘致 ・集落活動センター等を活用した中山間地域での宿泊施設の確保 ・KVCAや市町村、関係機関と連携した戦略的な誘致活動の実施 ・スポる!KOCHIや関係機関等と連携した情報発信の強化 ・県立スポーツ施設や市町村等に対し利用者者への避難経路・場所等の周知徹底を依頼	○新規プロ・アマチュアスポーツチームの誘致 ○インバウンド向けスポーツツーリズムの強化

重点事業の取組状況確認資料(令和6年度9月末時点) 【施策の柱③ スポーツを通じた活力ある県づくり】

事業名	事業概要	令和9年度末の到達目標	令和6年度末の目標値	実績 (R6.9月末時点)	9月末時点の 達成度
地域の特色を活かした スポーツツーリズムの推進	地域の特色を活かしたスポーツツーリズムを推進し、 地域経済の活性化やスポーツ参加の拡大、競技 力の向上につなげる	1 スポーツによる県外からの入込客数 ： <u>12万人</u> 2 「スポる！KOCHI」のセッション数 ： <u>182,5007.3万セッション以上</u>	1： <u>7万人</u> 2： <u>127,7507.3万セッション以 上</u>	1： <u>46,237人</u> 2： <u>118,620セッション</u>	1：(S) 2：(S)

【P(Plan)】	【D(Do)】	【C(Check)】	【A(Action)】	次年度に向けた 見直しの方向性
当初計画	これまでの取り組み状況	見えてきた課題	見えてきた課題に対する改善策	
(1) 自然を活かしたスポーツツーリズムの推進 ・KVCAや市町村と連携した開催支援（助成金、情報発信） ・「スポる！KOCHI」による情報発信 (2) サイクルツーリズムの推進 ・サイクルツーリズム推進検討会の開催 ・ぐるっと高知サイクリングロードのPR（展示会出展等） ・サイクルオアシス登録店の拡充（サイクルスタンド、空気入れ、ノボリ設置） ・四国4県連携（1,000kmチャレンジの推進） ・セトウチヴェロの協議会（中四国連携） ・「スポる！KOCHI」による情報発信（体験記、コース紹介等） (3) 高知龍馬マラソンの開催 ・安心安全な大会運営 ・定員1万人（フルマラソン）の確保等	(1) 自然を活かしたスポーツツーリズムの推進 ・市町村、広域観光協議会への周知（4月～）（助成制度、スポる！KOCHI） (2) サイクルツーリズムの推進 ・セトウチヴェロ トライアルライドinいの町（4/10） ・サイクリングアイランド四国会議（5/17） ・セトウチヴェロ担当者会議in今治（5/20） ・台湾インフルエンサー招聘（5/25～28）（仁淀ブルーライド参加、観光スポット・サイクルコース撮影） ・第1回サイクルツーリズム検討会（7/30） (3) 高知龍馬マラソンの開催 ・外国人枠設定（150名） ・台湾の旅行会社ヘチャーター便利用マラソンツアー造成を提案（4月～）（30人のツアー造成で合意） ・香港の観光レップとの協議（5月～）（今後、旅行会社等へ提案） ・高知県社交業組合への提案（4月～）（大会当日「夜もほろ酔いマラソンドリンクラリー」開催で合意） ・有識者会議の設置（大会の魅力向上、あり方検討等）（4月～）（計5回開催）（メンバー：トエネック監督、関西外大教授、土佐AC監督等） ・第1回高知龍馬マラソン総会（6/17） ・参加賞Tシャツデザイン募集（7/1～8/31） ・ランナー募集期間を1ヶ月前倒し（8/1～10/31） ・スーパーよさこいでのブース出展（8/24～8/25） ・第1回ランニングセミナー実施（全10回）（8/16） ・アンテナショップ「とさとさ」でのPR（9/7～9/8）	(1) 自然を活かしたスポーツツーリズムの推進 ・地域の担い手の確保 ・情報発信の強化 (2) サイクルツーリズムの推進 ・インバウンドの対応（サイクルガイド養成）（どっぷり高知旅と連携）（MAP・看板の多言語化等） ・サイクルオアシス設置施設の拡大 ・四国4県連携事業を活用したインバウンド誘致の強化 (3) 高知龍馬マラソンの開催 ・マラソン大会の過剰供給、ランナー人口減少による地方大会の参加者が減少 ・人件費や物価の高騰に対応した運営費の確保（参加者や協賛企業の確保） ・持続可能性の担保（ボランティアの確保等） ・10/22時点、エントリー数は定員の約75%であり、さらなる周知が必要	(1) 自然を活かしたスポーツツーリズムの推進 ・市町村等との連携強化 (2) サイクルツーリズムの推進 ・サイクルツーリズム検討会の設置（産学官で構成、戦略策定、インバウンド対応等） ・関係機関との連携強化 ・観光庁の補助金等の紹介 ・市町村、関係機関と連携した戦略的な推進活動の実施 ・四国4県連携事業のインバウンド誘致に向けた関係団体等とのさらなる連携 (3) 高知龍馬マラソンの開催 ・庁内、関係機関と連携した参加者及び協賛企業の確保 ・海外エントリー増に向けたセールス活動 ・県内のランニング団体と連携したランニングセミナー連続開催による新規ランナーの掘り起こし ・県内外のスポーツイベント等にブース出展等を行い、周知を強化 ・大会ゲストを活用した情報発信を実施	○インバウンド向けスポーツツーリズムの強化

重点事業の取組状況確認資料(令和6年度9月末時点) 【施策の柱③ スポーツを通じた活力ある県づくり】

事業名	事業概要	令和9年度末の到達目標	令和6年度末の目標値	実績 (R6.9月末時点)	9月末時点の 達成度
スポーツを通じた 国際交流	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウン等で関係を構築した国等との相互交流や、国内で実施される国際大会に出場する海外チームの事前合宿の受け入れにより、地域経済の活性化やスポーツ参加の拡大、競技力の向上につなげる	海外とのスポーツ交流が継続的に行われている。	—	—	—

【P(Plan)】	【D(Do)】	【C(Check)】	【A(Action)】	次年度に向けた 見直しの方向性
当初計画	これまでの取り組み状況	見えてきた課題	見えてきた課題に対する改善策	
(1) ホストタウン等の国等との相互交流 ・シンガポールスポーツスクールの受入(8月) (2) 海外チームの事前合宿等の誘致 ・国際大会等の関係機関からの情報収集 ・競技団体と連携した誘致活動 ＜チェコ＞ 高知県カヌー協会との交流 高知県ソフトボール協会との交流(4月～5月) ＜オーストラリア＞ 高知県ソフトボール協会との交流(8月)	(1) ホストタウン等の国等との相互交流 シンガポールスポーツスクール(中高生)の選手団受入 ・受託事業者との契約(5/24) ・関係者との協議・調整(4月～) ・選手団(バドミントン、卓球)の受け入れ(8/19～24) Yonsei Basketball Associationの受入(6/21～6/23) オーストラリアソフトボール・クイーンズランドの受入(8/22～8/29) 台湾明德高校バレー部の受入(9/14～9/18) (2) 海外チームの事前合宿等の誘致 ・チェコソフトボールチームの受け入れ (23名、春野総合運動公園、4/27～5/5)	(1) ホストタウン等の国等との 相互交流 ・受入体制の充実 ・連携協定を締結していない競技団体などの海外チームとの交流を促す取組が必要 (2) 海外チームの事前合宿等の誘致 ・受入体制の充実及びチームとのコミュニケーションの充実	(1) ホストタウン等の国等との 相互交流 ・関係団体と連携強化 ・スポーツだけでなく他分野での交流促進 ・競技団体などが行う海外との相互交流を支援制度を検討する (2) 海外チームの事前合宿等の誘致 ・施設側との連携及びチームとのコミュニケーションの強化	○スポーツを通じた国際交流の拡大に向けた支援の充実

1 令和5年(1～12月) スポーツツーリズムによる経済波及効果

(※ スポーツツーリズム課調べ)

経済波及効果：3,592百万円(プロスポーツ・アマチュアスポーツ・各種大会含)

算出対象：R5年のスポーツを通じた県外からの入込客数：86,094人
高知龍馬マラソン2023の県内参加者数：4,140人

- ※ 平成27年高知県産業連関表の40部門表を用いて試算。
- ※ 県外からのスポーツキャンプ・合宿・大会等の参加者及び観客が県内で消費した金額に基づいて算出(県内からの参加者・観客は算出に含まない。)
- ※ なお、キャンプ・合宿誘致や大会の開催等に伴う事業費は、算出に含まない。
- ※ 高知龍馬マラソンのみ、県内参加者及び観客の消費額や開催に伴う事業費を含む。(高知龍馬マラソン2023の経済波及効果は、374,520千円)。

2 分析・評価

- ① 事業効果を定量的に把握するため、今回初めて経済波及効果を算出。
- ② 間接・直接効果を見ると費用対効果は高い。(参考 R5当課予算：274百万)
- ③ ただし、宮崎県と比較すると、その差は大きく引き離されている。
- ④ 他方、宮崎、高知ともスポーツツーリズムによる経済効果が高いことを示唆しており、今後、施設整備や誘致のあり方等を検討する上で参考とする。
- ⑤ スポーツツーリズムの効果は、経済面だけでなく、社会的な効果(別添)が高いことから、両面の観点で事業を推進していくことが必要。

【参考】宮崎県※ スポーツツーリズムによる経済波及効果を公表しているのは宮崎県のみ。

R5年春季プロキャンプ・アマチュア合宿の経済波及効果：11,843百万円
(※ 春季プロキャンプ(1～3月)実績：プロ野球 7チーム、Jリーグ 17チーム)